



第 34 号

発行  
弘前大学教育学部同窓会  
鈴木 弘  
所在地 弘前市文京町 1  
TEL 0172 (36) 2111 代表



学部長就任にあたって  
教育学部長 伊藤 成治

平成二十四年四月から、教育学部長を拝命いたしました。私自身、この任に堪える器だとは思っていませんが、何とか力を尽くしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育学部は、これまででもそうでしたが、これからも地域と一体となりながら、地域の教育の向上、教育研究の推進、教員養成の充実を進めてまいります。

今年度の教育学部について四点左右ご報告します。

- ① 校舎の改修・改築工事が終了し、それぞれの課程・専攻・専修に合った自主学習に利用可能な研究室、演習室、資料室、実験室及び制作室が整備・充実されました。
- ② 教育力向上プロジェクト（ラボ・バスプロジェクト）の文部科学省特別経費による予算措置が終了します。来年度からは、今まで通りとは行きませんが、学部の予算で継続する予定です。
- ③ 「キャリアサポート実習」という授業を青森県教育委員会と連



全面改修を終えた「教育学部校舎」正面玄関付近

携して開設しました。この授業は、青森県教育委員会主催の高校生キャリア形成を支援するワークショップ「キャリアサポートプログラム」に参加することによ

紙面から

- 1 「学部長就任にあたって」……………学部長 伊藤成治
- 2 「学校サポーター実習について」……………清水教授・福島准教授
- 3 「週末の宝物」……………協力校 今船沢中学校長
- 4 「サポーター実習を終えて」……………四年 坂本真衣
- 「さらなる発展を……」……………教育学部との懇談会
- 事業報告・決算報告 他……………鈴木同窓会長



学生ラウンジ (1F)

て、コミュニケーション、プレゼンテーション、ファシリテーション等の対人関係スキルを向上させると共に、高校生と関わることで現在や未来の自分を考え、自らのキャリアデザインを描かせることを目的としています。

④ 昨年六月に「大学改革実行プラン」が文部科学省から出され、その中の「国立大学改革基本方針」で、二十四年度中に教員養成、医学、工学の「ミッションの再定義」が行われることになっていきます。これは、大学・学部の設置目的を明確化し、公的教育機関としての存在意義を「見える化」するというものです。



美術制作室 4F (弘大資料館上)

もう少し詳しくお知らせします。昨年末に一回目のヒアリングがありました。そこでまず聞かれたことは「青森県における教員需要と学生定員との整合性」です。教員退職者はこれからしばらくの間は増えていきますが、青森県の採用計画が確定しているわけではありませんが、難しい課題です。そして、昨年八月に出された中教審答申にある「教員養成の修士レベル化」にどう対応していくのか、「生涯教育課程」のミッションとは、という課題もあります。

とても短い時間の中でこれらの課題に対応していかなくてはなりませんし、教育学部はその組織の改編も含め在り方自体が問われている感もあります。

同窓会の皆様には、これまで物心両面で教育学部を支えていただきました。今後変わることもなく、母校、後輩を温かく見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

# 学校サポーター実習について

教育学部 教授 清水 水紀人  
准教授 福島 裕敏



清水教授



福島准教授

学校サポーター実習は、教職志望の四年次学生が近隣の公立学校

において、週一回・終日・年二〇回を、教育活動支援に携わるものである。支援の内容は、授業における個別児童生徒に対する支援、給食・清掃時や学校行事の補助など多岐にわたる。途中、八月九月に二週間・集中の研究教育実習があり、そこでは学生が主体的に授業等の教育活動をおこなっている。この他、大学で年五回開催される省察検討会において、学生同士が実習経験を振り返っている。なお、養護教諭養成課程の学生に対しては、養護実習の発展として十月から保健室支援活動をおこなう学校サポーター養護教諭実習がある。

お、大学から離れた学校に通う者に対して、交通費の補助をいただいている貴同窓会にこの場を借りて、感謝の意を表したい。

学校サポーター実習の目的は、学生が派遣された学校の教育活動の充実に資すると共に、学生自身の将来の教員としての資質の向上を図ることにある。学生にとつては、長期にわたる子どもたちの成長と、それを紡ぐ先生方の顕在・潜在の熱心な取り組みについて学ぶ機会となつている。学生からは、「児童生徒への関わり方を間近で学ぶことができた」「一年の学校の流れをイメージできた」「教育

的愛情や使命感が高まった」等の声が寄せられている。これもひとえに、未熟な学生を学校の一員として温かく迎え、丁寧に指導して下さっている協力校と、本実習の円滑な実施に尽力いただいた教育委員会のおかげと考える。

昨年六月「大学改革実行プラン」、同八月に中央教育審議会答申が出され、教員養成・教育学部の在り方があらためて問われている。そこでのキーワードの一つは「教育委員会・学校と大学の連携・協働」である。それを体現するこの学校サポーター実習は、以前にも増して重要な役割をもつだろう。貴同窓会の方々の様々な形での御支援・御協力を賜りつつ、高い資質能力をもった教員の養成に向けてこの実習の充実に努めていきたい。

## 週末の宝物



学校サポーター実習協力校 弘前市立船沢中学校 校長 今 牧人

中土手町の交差点にさしかかると、船沢のねぶたの紹介アナウンスが始まった。聞いた事のある声だった。「坂本先生だ」という声がねぶたを引く生徒から上がった。全国大学放送コンテストアワード部門一位、文部科学大臣奨励賞受賞。さすがである。幼稚園児から年配の方まで、船沢地区のあらゆる世代の人々が参加した八月二日の合同運行の時のことであつた。

習の時間に、地域のねぶた絵師の指導をうけて、生徒がねぶた絵を書き上げ、その後、「おやしの会」の人たちの手によって貼りつけられたものである。

本実習は、「教員を目指す学生による教育活動支援に関する協定書」にもとづいて実施されている。現在では五つの教育委員会（弘前、青森、平川、黒石、西目屋）と二つの高等学校（弘前中央、弘前実業）との間で協定が結ばれている。年度による増減はあるが、近年では六〇名前後の学生が、約四〇校に通っている。ただし、各学校からはそれを上回る要望が寄せられており、それに十分にこたえられていないのが現状である。な

船中のねぶたは、坂本さんのサポーター実習期間中の総合的な学

坂本さんは、研究教育実習で一・二年生の国語の授業を行った。サポーター実習では、朝読書の授業参観・補助。昼食指導、清掃、帰りの学活、放課後の卓球部指導。朝から夕方まで、本校の教師以上に長い時間、決して意欲的に学習に取り組むとは言えない本校の子どもたちに、ていねいに向き合う姿に感銘を受けた。また、男子生徒と言ひ合いをして泣きじゃくる女子生徒に半日寄り添う姿も印象的であつた。

教員採用試験が終わつた頃、おしゃれた都会と青森県、両方の採用試験に合格したら、どちらに勤めたいと尋ねたら、即座に青森県と答えた。教職に対する高い意識を感じた。



授業風景から

## サポーター実習を終えて

学校教育教員養成課程 四年

坂本 真衣

三年次教育実習を終えた後、自分の将来について時間をかけて悩み考えました。しかし授業をする楽しさや喜びを忘れられず、教員を目指すことに決めました。そこで「もっと現場を知りたい！」と思うようになり、学校サポーター実習に挑戦することにしました。

五月から、縁あって弘前市立船沢中学校で学校サポーター実習をやらせていただくことになりました。専門の国語をはじめとする授業の見学・サポート、学級事務のお手伝い、部活動のサポート等をやらせていただきました。初めて経験することがほとんどでしたが、先生方が優しく教えてくださり、一つ一つ学ぶことができました。

生徒たちとは、回を重ねる毎に関係を深められたと思つています。嬉しいこと、つらいこと等、生徒の様々な感情を共有できたことは、私にとって貴重な経験でした。

私は今年四月から、青森県で中学校教員として働きます。学校サポーター実習の経験と思い出を胸に頑張りたいと思います。

最後になりましたが、約一年間にわたりご指導くださいました船沢中学校の教職員の皆様、そして学校サポーター実習に通う際の交通費を支援してくださいました弘前大学教育学部同窓会の会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。



さらなる発展を...

教育学部同窓会長 鈴木 弘

まず最初に、伊藤成治先生の学部長ご就任と校舎改築工事の完成をお祝い申し上げます。併せて新リーダーの下、新装なった校舎に新しい風が吹くようご期待申し上げます。「お祝いと期待」というとき、私たち同窓会は何をどう応援していけばよいのか、何が出来なのか等々考えさせられます。

校舎完成時には「同窓会としてなにか祝意を表する」ということは過去の総会等で既に皆様のご了解を頂いているところであります。具体的には今後の話し合いで決定したいと思っております。

話は変わりますが、校舎の一角に待望久しい、同窓会も使用できない小部屋を確保することができました。昨年暮れ、五十周年記念会館内に保管していた本会の資料等を搬入致しました。今後の、同窓会の活用法について検討していきたいと思っております。いずれにしても、学部のご配慮に深く感謝申し上げます。また、当同窓会への入会員の減少傾向にどう歯止めをかけるかも頭を悩ませているところですが、従来の、入会時の勧誘以外の機会に学部側が学生に働きかけて下さり、若干名ではあります

に加入して頂くことができませんでした。大変有り難いことだと思いましたが、とても嬉しく思いました。こんなことが、もしかしたら、まだできるのかもしれないとも思いました。

学部の取組や学生達の活動を紹介するのも応援の一つになるのではないかと考えております。そのような観点から、先生方や学生の協力を頂いて、昨年度は本紙に「学校適応指導教室」の概要を掲載しましたし、今年度は、学生の、教員としての実践的な指導力を高めていくための取組「学校サポーター実習」について紹介することにしました。また、文部科学省特別経費による「ラボ・パス事業（教育力向上プロジェクト）」は二十四年度で終了しますが、教育学部では来年度も学部独自の予算で継続していくということが本年早々新聞紙上で報道されてお



ました。学部の意欲と積極性がうかがわれるように思います。その他、学生の作品発表会や文化祭における活動の一端なども紹介しており、応援、激励に出かけたりしております。

平成二十四年度

弘前大学教育学部・同窓会懇談会

平成二十四年度の教育学部と同窓会との懇談会は十月三十一日（水）に開催されました。

三年間かけて耐震化し、化粧直しされた教育学部の校舎を見学しました。

まずはじめに新しく建設された弘前大学資料館の見学です。ここには教育学部や医学部、理工学部、農学生命科学部、人文学部等の貴重な資料が展示されています。是非皆様の目で直接見学してほしい場所です。その後、教育学部の改築された真新しい講義室等を見学した後、懇談会に臨みました。

伊藤新学部長、鈴木同窓会長の挨拶の後、学部側から現況について説明が行われました。

戸塚先生からは教員養成カリキュラムにおけるグループウェアの活用方法（Aグループ学部、Bグループ教育委員会・小中学校、Cグループ学生の三者関係について）や大学院教育学研究科について説明がありました。

小玉先生からは平成二十三年度の就職内定状況の説明で教育学部は九十六・八％で学内で一位、

ささやかではあります。同窓会の支援が教育学部の発展や学生の成長に少しでも資するものであればいいなあと祈るような気持ちの昨今であります。

また就職支援室を設置し学生を日常的に支援している旨の報告があり、これらの取り組みが就職率の向上につながっているようです。

浅野先生からは附属学校園の現況について説明がありました。

伊藤先生からは「教員の資質能力向上の方策」答申の概要について、教員免許制度では一般免許状、基礎免許状、専門免許状（仮称）が、大学院修士課程にはその三割は現場経験の教員を入学させるようにすること等が検討されている旨の報告がありました。

その後、スクーラムに移動して懇談会が行われました。



資料館入口（教育学部南側）



平成 23 年度決算

Table with 4 columns: 項目, 23年度予算, 23年度決算, 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

2,319,637 (円) - 1,885,128 (円) = 434,509 (円)
残額434,509円は次年度へ繰り越します。

平成 24 年度予算

Table with 4 columns: 項目, 23年度予算, 24年度予算(案), 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

平成二十四年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告

平成二十四年度の定時総会は平成二十四年六月二日(土)午後二時から弘前パークホテルにおいて鈴木会長以下二十四名の役員(会長、副会長、監事、各支部長、支部評議員、常任委員)が出席し開催されました。

最初に鈴木会長より挨拶があり、その中で「学生諸君との交流をできるだけ持ちたい」旨、力点をおいて話をされました。その後、黒石・平川・南郡支部の花田幸三先生を議長に選出し議事進行に入りました。

審議が行われました。毎年問題になって同窓会新会員加入の問題も取り上げられましたが、学部の先生方にも協力をお願いする事になりました。また、全学同窓会の負担金が問題になりました。三割弱の加入しかないのに八割の会員分の負担を求められていることに疑問が出されました。副会長で全学同窓会の事務局長をされている工藤睦男先生が答弁を行いました。結論としては大学が独立行政法人になったことにより設置された全学後援会と全学同窓会との関係で難しい問題となつてることが説明されました。時間の関係でつっこんだ話し合いは行われませんでした。役員改選の後、伊藤新学部長さん、長澤事務長さんをお迎えし懇親会が盛大に行われました。

事業計画

- 1. 同窓会費納入
2. 平成 23 年度会計監査・事務局会議
3. 平成 24 年度総会
4. 同窓会・教育学部懇談会
5. 同窓会報「あすなろ 34 号」発行
6. 弘前大学卒業式・祝賀会
7. その他

特別会計基金

<青森銀行関係>
6,026,124 + 2,893(利息) = 6,029,017円
6,029,017 - 700,000 = 5,329,017円
平成 23 年度予算へ 700,000円を繰り入れる
<みちのく銀行関係>
5,851,146 + 2,809(利息) = 5,853,955円
平成 24 年度予算へ 500,000円を繰り入れる

平成 23 年度 庶務報告

- 1. 23年 3月 同窓会費納入依頼
2. 23年 4月 2日 平成 22 年度会計監査会、事務局会議
3. 23年 5月 26日 教育学部学生教職員連絡協議会
4. 23年 5月 28日 平成 23 年度総会
5. 23年 7月 2日 弘前市教育委員会教育長訪問
6. 23年 10月 22日 平成 23 年度教育学部保護者懇談会
7. 23年 12月 7日 同窓会・教育学部懇談会
8. 24年 3月 9日 同窓会報「あすなろ 33 号」発行
9. 24年 3月 23日 弘前大学卒業式・祝賀会

平成二十四年度役員

- 1, 支部長 弘前・中郡支部 菅森 義男(弘前市)
2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(藤崎町)
3, 五所川原・北郡支部 田中 高志(斗川小)
4, つがる・西郡支部 内山 博文(森田小)
5, 青森・東郡支部 奈良 年永(青森市)
6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7, 三沢・十和田・上北郡支部 梅田 真規(六戸町)
8, むつ・下北郡支部 廣野 雅美(野辺地町)
9, 弘大教育学部支部 宮木 正信(第二田名部小)
10, 葛西 敦子(教育学部)
11, 評議員 弘前・中郡支部 松田 千代治(弘前市)
12, 前田 幸子(弘前市)
13, 伊藤 邦雄(弘前市)
14, 高木 順造(弘前市)
15, 小山 順造(弘前市)
16, 黒石・平川・南郡支部 秋田 豊(弘前市)
17, 花田 欣一(平川市)
18, 稲葉 幸三(弘前市)
19, 山内 孝行(平川市教委)
20, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也(鶴田町)
21, 常任委員 葛西 恒雄(弘前市)
22, 佐々木 健(弘前市)
23, 対馬 浩二(尾上中)
24, その他の支部 野呂 徳治(実践セタ)
25, 弘大教育学部支部 平岡 恭一(教育学部)
26, 安藤 智史(附属小)
27, 西郡支部 尾崎 道浩(徳波小)
28, 高橋 範隆(つがる市)
29, 屋敷 政勝(つがる市)
30, 尾崎 修一(修道小)
31, 齋藤 善三(弘前市)
32, 木村 清之助(弘前市)
33, 鈴木 睦男(弘前市)
34, 工藤 睦男(弘前市)
35, 相馬 正栄(平川市)
36, 佐々木 誠(八戸市)
37, 奈良 年永(青森市)
38, 齋藤 光正(弘前市)
39, 岡元 淳一(弘前市)
40, 笠島 明(青森市)
41, 須藤 暁一(青森市)
42, 西田 秀一(青森市)
43, 吉田 秀一(青森市)
44, 高橋 正栄(五戸町)
45, 齋藤 真知雄(八戸市)
46, 尾崎 官一(五戸小)
47, 千葉 力久(八戸市)
48, 佐々木 修(八戸市)
49, 乙山 廣政(八戸市)
50, 岩田 繁雄(十和田市)
51, 梅田 真規(六戸町)
52, 山村 義明(三沢市)
53, 永瀬 俊明(十和田市)
54, 馬場 せつ子(三沢市)
55, 川村 正(三沢市)
56, 福沢 周治(十和田市)
57, 樋口 博昭(ちとせ小)
58, 工藤 魏(むつ市)
59, 太田 久美子(正津川小)
60, 平岡 恭一(教育学部)
61, 安藤 智史(附属小)
62, 野呂 徳治(実践セタ)